

No.127

公民館だより

平成18年6月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

第40回由良岳登山

由良地区公民館長 飯澤登志朗

芦生演習林のある杉尾峠から流れを發する由良川は一四六kmを経て大河となり日本海へゆつくり流れ込みます。

その由良川や白砂の海岸を眼下に納める由良岳は丹後富士と呼ばれ、二等三角点のある西峰と虚空蔵菩薩を祭る東峰に分かれ、郷土由良の集落をゆつくり包み込むように毎年私たち登山者を迎えてくれます。

日々姿を変えながら温かく、時には厳しく地域全体を癒してくれるすばらしい由良岳です。

新緑の4月29日、第40回由良

岳登山は多くの登山者を迎え、無事終了することが出来ました。

平成14年度全国優良公民館として全国表彰を受賞しましたがその理由は、

『郷土の自然を味わい、参加者同志の交流や健康の増進を図るため地元観光協会等関係者と連携し地域をあげて取り組む由良岳登山を毎年実施、幅広い年齢層の参加を得て地域の連帯意識の形成を図っている』とされています。

今年も由良観光組合を中心とした有志の方々が登山道確保の

ため多忙な日々を調整して登山道整備を実行していただきました。

昨年も台風23号による倒木や土砂崩れ等で寸断された登山道を修復していただきましたが、

今年も大雪による倒木や裂木が多く作業は難行していました。

このように裏方のご支援により登山が継続されていることに改めて感謝する次第です。

由良岳登山の歴史は古く、昔から「虚空蔵山」と呼び信仰の対象として数え年13歳の春には力石を持って山頂の虚空蔵菩薩にお参りすると願いが叶えられるといわれ、謂ゆる「十三参り」の風習となり現在に受け継がれてきました。

山と溪谷社発行の「関西百名山」のなかにも由良岳は紹介されています。(一部紹介)「山頂は三角点のある西峰と虚空蔵菩薩を祀る石室のある東峰とに分かれる。西峰からは天橋立を見下ろすことができるが展望は鞍部から左の東峰からの方が良

く……(中略)

山名の元となった由良は波の静かな砂浜の海岸という意味の自然地名である。(以下略)

最近では中高年の登山グループが増え四季を通じて山頂を目指す登山愛好者が多くなりましたが、海水浴や温泉、みかん狩り等由良地区観光の一つに登山が加わり地域活性化に繋がればと願っています。

最後になりましたが地元小学生も元気に参加してくれました。前年の先輩の行動を見ていたのでしょうか。下山時に登山証明書や記念品をお渡しする際、積極的に手伝ってくれました。

この小学生達が卒業しても次の小学生が必ず受け継いでくれるものと信じています。

先に述べましたように、郷土の自然を味わい、参加者の交流健康増進を図り幅広い年齢層の参加と地域の連帯意識の形成を目標に今後さらなる登山の盛会を祈念いたします。

平成18年度

由良地区公民館運営審議会委員名簿

(順不同・敬称略)

【運営審議会委員】

由良小学校校長 倉野英明
由良自治連合会会長

野村孝行
協自治会会長 小田原凱男

宮本自治会会長 山口正憲
浜野路自治会会長 中西英貴

港自治会会長 藤本繁光
下石浦自治会会長

上石浦自治会会長 野村一雄

山下作右衛門
市議会議員 大森秀朗

学識経験者 小室二三子
由良幼小中学校PTA会長

由利典久
栗田中学校PTA会長

千坂幸雄
婦人会会長 岡田たつ子
松寿会会長 熊田良雄

子供会連絡協議会会長

牛田昌也

【公民館役員】

公民館館長 飯澤登志朗
公民館主事 磯田充亮

【分館長】

脇分館長 奥野彰
宮本分館長 枘田達是

浜野路分館長 有本敬
港分館長 山田正明

下石浦分館長 岸田幸夫
上石浦分館長 山下正貴

【幹事】

(文化部) 部長 中西衛
副部長 大森和代

小田原利晴・亀井正一
舛井満夫・高野理津子
森田耕二・中西正直

市場正治・山田浩昭
野村馨・野村雄治
森本順子・酒本文子

(体育部)

部長 中尾満久
副部長 千坂幸雄
副部長 岡本輝子

松林威寿・松本清
上羽康一・山本隆教

中西一成・牛田洋美
矢谷浩・中西泰之

濱野美香・森田美砂子
山田彰子・岸田清

山下祥子・岸田格
山下眞寿美・岡田たつ子

間縞幾久代

平成18年度事業計画

(文化部)

○盆踊り大会(子供地藏盆)

八月二十日

○文化祭(婦人会協賛)

十一月三日

○四部対抗囲碁大会

一月二十一日

○自治学級

二月四日

○生涯学習(人権学習)(婦人会・PTA共催)

二月二十五日

○公民館だより

年三回(五・十・二月)

○由良歴史年表編纂事業

周年

(体育部)

○第40回由良岳登山(雨天の場
合五月三日)

四月二十九日

○四部対抗バレーボール大会

六月十一日

○四部対抗ソフトボール大会

八月十四日

○ふれあいグラウンドゴルフ大会

九月十日

○卓球教室(第二・第四土曜日)

一月〜三月

○子ども料理教室

ケーキ作り 十二月十七日

もちつき大会 (未定)

行事報告

主 事 磯 田 充 亮

◎二月二十六日(日)

生涯学習講座(人権学習)

宮津市社会福祉協議会ボラン
ティアコーディネーター 清水
睦先生により

「ボランティア活動について」と題して講演をいただきました。主な内容は

「ボランティア活動は多種多様であり、その必要性、重要性については皆様ご存知でありますが、いざ実行となるとむずかしく考え、尻込みする人がいます。ボランティアを考えている人は、

一、自分の手の届く身近なことから始め、私生活を犠牲にせず無理なく実行する。

二、受け取る側の気持ちになり、押し付けず、約束は必ず守る。

三、活動は一生の中で学びつつ細く長く続け、ルールの枠内で人と人の和を大切にして、人から尊敬されること。

何よりもお金では得られない、出会い、楽しみ、生きがい、『ありがとう』等感謝の言葉を聞いた時の充実感が次への力となる。と述べられ多くの人の参加を呼びかけておられました。

他に専門的な「ボランティア活動四原則」や活動を進めるための「障害(バリアー)四項目」について説明があり、その後、プロジェクトを使って現在宮津市で活動している「ふれあい給食」等のボランティア活動を写真付きで紹介がありました。

他に社会福祉協議会の組織や活動の紹介がありました。

◎四月二十九日(土)みどりの日

由良岳登山

皆さんのご協力をいただき恒例の登山も四〇回を迎えることができました。

記念に山頂での「大声コンテスト」を実施、下山時に「登山証明書」とかわいい動物の「ハッピーマグネット」を交付いたしました。

「大声コンテスト」は祠の台座上で行う予定でしたが、強風のため横の広場で行いました。

参加者は一メートル離れた騒音測定器に向かって発声、その音声を測定しました。

小学生等43人が挑戦し、「ヤッホー」「ウォー」等めいめい大声を出し、その声は里までとどくほどでした。最高は一〇八・四〇〇デシベルを超えていました。

(参考、小学校のサイレン音を校門で測定した数値は、一〇四・二デシベルでした)

毎年「四月二十九日皆んなで

登ろう」を合言葉に長年続けている行事を広く知ってもらうため、宮津市教育委員会に広報を依頼したところ、京都新聞を始め各紙の地方版に行事予定が掲載され、宮津美しさ探検隊の協力を得て、昨年より50名多い二一〇名余りの方が参加されました。

なかには三歳誕生日前のお子さんや八〇歳近くの高齢者の方が登られ、舞鶴、京丹後市等宮津周辺の人達が多く参加されました。

最後になりましたが、記念登山前に由良観光組合、実業会青年部他協力者の方に、チェンソー、草刈機による登山道等の整備をお世話になりました。

特に尾根の倒木多数の除去作業等ご苦労をありがとうございました。

登山者からも「整備ありがとうございました。等の感謝の言葉をいただきました。

ありがとうございました。

就任挨拶

由良自治連合会長 野村孝行

この度足立明氏の自治連合会

長ご退任に伴い不肖私が後任として自治連合会の推薦委員会を推薦を受けました。もとより長に立つ器ではありませんが、ご推薦を受けました以上、非才な私ですが、由良地区の皆様のご温かいご理解とご協力を頂き、又各自治会長さんをはじめ公民館、各種団体のご指導を賜り、微力ながら一生懸命務めさせて頂く所存でございますので何卒よろしくお願い致します。

さて、宮津市では平成十三年度に「宮津市新しい行政大綱」が平成十七年度まで五カ年を計画期間として策定されましたが五カ年の最後の十七年度には市税の減収、地方交付金の大幅な削減、台風二十三号による不測の支出などが重なり大幅な財源

不足となつています。

このような状況では宮津市は、「財政再建団体」へ転落します。そうなれば言うまでもなくご承知のとおり市独自の行政が出来なくなり皆さんにいろいろの面で負担増が強いられます。

こうした状況を克服する為宮津市は平成十八年度からの五カ年間行政改革のため、「宮津市行政改革二〇〇六」が策定され、五年間で六十億円の財源不足が生じることの解消とされています。

その為に、私達市民が辛抱や多くの負担を強いられることとなります。

この様な状況の中で由良地区は医療問題、環境整備、IT関連（光ファイバー）の遅れ、高齢者対策等々の多くの問題課題を抱えております。

先ず第一に診療所の問題です。

長年お世話になっておりました、四方先生が平成十六年に医院を廃業され、現在無医地区になっております。四方医院でお世話になっておられました方々も宮津市・舞鶴市に電車又は家族等の送迎でご苦労されておられます。

昨年由良地区で実施したアンケートによりますと回答者の内、七十四パーセントの方がお薬、診療に係わっておられます。

この問題を解消するべく市会議員、歴代の自治連合会長の方々が行政とも連携をとりながら由良地区のために最大限の努力をされておられます。今後も高齢化が進む中、第一課題として一日でも早く由良地区内での診察が出来るように思っております。

農協跡地（診療所として利用）の件、医師の確保と、難しい問題を抱えております。少しずつではありますが前向きな方向になっております。行政と連携を

充分に取り早急に実現するよう努力してまいりたいと考えております。

情報関連については光通信網の問題です。現在栗田、神崎、八雲においては既に開通されており由良地区が取り残されております。光ファイバー開通の遅れにより、由良地区はますます過疎化が進み、自営業、農業また若年層の由良離れが起り、情報社会から益々遠のいてしまっています。早急に京都府・宮津市等行政に働きかけ、業者との交渉を迅速に行い情報社会に遅れないように努力していきたいと考えております。

また、環境問題にも大きな課題を抱えており、特に下水道については毎年自治連合会として宮津市に要望をしております。各地区とも側溝に雨水と一緒に家庭用汚水も一部由良海水浴場に流されています。観光客からの環境について苦情も絶えない状況になっており、

この件についても早急に実施して頂かねばならない問題です。

宮津市の「行政改革大綱二〇〇六」の策定により、我々由良の住民も補助金の廃止・減額・手数料等値上げで家計に負担が増えてきます。又財政難の中、公共事業の見直しでいろいろな要望の内実施されることも難しくなっております。

子どもをめぐる情勢

由良小学校長 倉野英明

児童の安全が脅かされ、いかに児童の身を守るかが緊急の課題として、国あげての対策に乗り出している中、また、秋田県で一年児童が何者かに連れ去られ、殺害されるといった痛ましく悲しい事件が発生しました。その後にも、佐賀県でも五年児童がひき逃げに会い、林の中に放置されるといった事件も起きています。

そうした中、由良地域においては是が非でも診療所・光ファイバー・下水道のことは実現に向けて頑張つて行かなければならないと考えておりますので自治会長初め各種団体、又由良地区の皆さんの温かいご支援ご協力よろしくお願いいたします。

学校は、安全で安心してみんなと仲良く、楽しく学ぶ場といったことが大きく揺さぶられたのは、平成十三年六月、大阪教育大学付属池田小学校に暴漢が侵入し、無差別に斬りかかり多くの児童を殺傷するといった前代未聞の事件が起きてからです。この事件は、学校が自由に行き来できる「開かれた学校」から「安全対策重視」に方針を転換

するきっかけになりました。

しかしながら、この間にも奈良や広島、栃木の方でも、低学年女児が下校途中に殺害される事件が起きました。まさしく、学校の安全神話が崩れ去つたと言わざるを得ない状況になっていきます。特に京都府においても、平成十五年十二月に宇治市立宇治小学校に男が侵入し、児童二人にけがを負わせるといった事件が起きました。このことがきっかけとなり従来にも増して、児童の安全確保と学校の安全管理の徹底が喫緊の課題となりました。

学校も児童の安全を守るため、緊急事態を想定した避難と被害を食い止めるための防御態勢についての訓練を行い、実施後、由良の駐在所の中村さんから、よりの確な避難の仕方や犯人への対応や防御の仕方、等学校の安全対策について教えていただいたり、指摘を受けたりし、見直しを行いました。他にも児童

への安全指導も日常的に行っていますし、近隣の学校や地域で安全が脅かされる事象が発生した時は、そのことを教訓化し、指導や防犯対策に生かすようにしています。

また、来校者をより確認するため、インターホンや職員室の受付を通すことなどをお願いしています。児童には、危険な時はこども一〇番の家に助けを求めるとの周知や防犯笛を持たせたり、一人ではなく必ず数人で帰るよう指導したりしていますし、毎週、月と水曜日には集団下校を行っています。

さらに地域の方々にお願いし、松寿会の方々には下校時パトロールを行ってもらっていますし、民生児童委員の方々も毎週、月曜日の朝、あいさつ運動を兼ねて児童の様子を気にかけていただいています。

また、このような情勢の中、京都府も、文部科学省の委嘱を受け、府内の小学校等において、

家庭や地域の関係機関・団体と連携しながら、学校安全ボランティアを活用した効果的な安全体制を整備することを目標に「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を展開しています。その一環として、府下各小中学校に警察官OBのスクールガードリーダーを配置しました。

導入の趣旨は、学校巡回指導やボランティアへの指導及び協力して安全体制を確立することにあります。

そして、今までも、朝の登校時家の前や集合場所等で子どもたちを見守ったり、声かけをしたり、下校時、自転車に乗って見守ってくれたりしていただいています。今後はもう少し組織的に「自分たちのまちは、自分たちで守ろう」といった強い思いの中で、府内全域に自主的に防犯活動を行うボランティアグループ「こども地域安全見守り隊」の結成を呼びかけています。

この間の動きの中で、宮津・与謝地域のあちこちの学校で結成に向けた取組が報告されていますし、実際活動している学校も出てきています。

あくまで、人数や活動日数等について制約はありますが、防犯活動を行う上での帽子、腕章、保険、ジャンパー等のグッズがいただけです。

由良小中学校は、校区も狭く、通学路も大きく分けて脇方面、浜野路方面、石浦、港方面からの三ヶ所からであり、また、距離も短く、比較的孩子もたちの動きが見やすい状況にあります。今後、この由良においても「こども地域安全見守り隊」の結成に向けて、PTA、学校評議員会、由良防犯連絡協議会、由良駐在所等の協力を得て、多くのボランティアを募っていきたいと考えています。

地域の子どもが、元気に登校し、みんなと学び、活動し健やかに育つことがみんなの願いで

もあります。そのため、児童たちの安全が脅かされることのないよう条件を整備していきたい

子育てについて

栗田中学校長 小西康徳

五月と言えば五月晴れ、一年の中で最も気持ち良く過ごしやすい季節のはずですが、今年はなぜか雨が多く、いつもの年の五月とは思えません。

私、この度の人事異動によりまして、栗田中学校の校長を仰せつかりました小西でございます。微力ではありますが、精一杯頑張りたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、今年度は三十四名の新生を迎え全校生徒百二名（由良地区生徒四十八名）で、平成十八年度がスタートし、早二ヶ月が過ぎようとしています。本校では、教育目標「豊かな

と思っています。地域の皆様は温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

心と健康な体、確かな学力を身に付けた生徒の育成」のもと、様々な活動をとおして、生徒一人一人が栗田中学校で学んで良かったと思えるよう教職員一同頑張りたいと思います。

中学生時代というのは、子育ての中でも一番難しい時期と言われています。我が家でも同様で、子供を育てるのに毎日格闘しており、反省ばかりが多くて駄目おやじであります。

家庭は安らぎの場と言われます。親の愛情を子供自身が肌で感じとる場でもあります。理屈はいりません。子供が帰ってきた時、そこに親のにおいがすればよいと思います。「ああ、自分

の家に帰ってきた。「これで子供の心もゆるみます。たとえ仕事で親が家にいなくても、「お帰り、冷蔵庫にジュースが冷やしてあります。」のメッセージのにおいで十分です。帰宅時間を見計らったの電話のメッセージならもつと良いと思います。自分の存在を認めてもらった喜びを子供は感じます。存在を認められれば、子供は張り合いを持ちいるんな事に挑戦します。人間として生きていくための自信もこんな所から生まれてきます。そして人への信頼感もこうした愛情から育ちます。

ところが、多くの親は今、忙しく、疲れています。特に気になるのが心の疲れです。心が疲れると愛情よりも理屈が先行します。「何をぐずぐずしているの。」

「勉強はどうしたの。」「あれだけ言っているのにゲームばかりして。」「そんなことで高校が受かるの。」と矢継ぎ早に叫ぶ。子供の後ろ姿に向かって叫ぶから

子供の顔は見えません。心も見えません。当然子供も親の本当の気持ちばかりありません。生徒と話しているとドキッとすることがあります。「うちのおかあは母親でない。調教師だ。」お母さんが何故そう言われるのか、本当の気持ちは君が可愛いからだよと諭したことがあります。私がかつて中学校の担任をしていた頃、ある女生徒が「私には家はあるけど、家庭がない。」と訴えた事を思い出しながら、かけがえのない我が子を、何とかという親の切実な気持ちを素直に子供に伝える……これは、テクニクはなく、親自身の心の課題かもしれません。せめて親にだけは、心が疲れたままで子供に接しないでほしいと思っています。

由良岳に行つた

4月29日(土)に、由良岳登山に行きました。最初に、学校に集まって体をしました。そのあと、由良岳に登りました。わたしは、友だちのちなちゃんともやちゃんとまやちゃんのお父さんと登りました。

3合目までくると、苦しくなってきました。おやつを食べながら行っていたらあつというまにちよう上に着いてしまいました。

そのあと、おべんとうを食べました。おべんとうがとってもおいしかったです。

おべんとうを食べた後、おやつを食べたら、「大声コンテスト」の紙が出ていたのでわたしも出ました。

わたしは、4番目に言いました。あまり大きな声は出せませんでした。わたしは、「ヤッホー」

五年 山下はるな

と言いました。

そして、そのあと、山をおりました。山をおりるときまた、おやつを食べながらおりていきました。

下についてから、ねこのマグネットをもらいました。

山登りはたいへんだったけど、とっても楽しかったです。



大声コンテスト

由良岳登山

五年 竹田 真子

4月29日に由良岳登山がありました。

由良岳登山は今年で40年ということが分かりました。

わたしは「すごいなあ。」と思いながら、集合場所のグラウンド(由良小)に行きました。

まず、じゅんび体そうをしてからいよいよ出発です。

わたしといっしょに登る人は五年のかな実ちゃんとももちやんです。

でも、国民宿しやの坂道のところで「はあはあ」と言っていました。

そして登山道に入りました。登山道は、道がデコボコで坂になっていてとつてもつかれました。

10分に1回ぐらい休みました。そして、1時間半がたちました。

足はもう、いたくて歩けないかと思いました。

そしたら目の前には、ちょう上のかん板がありました。

わたしとかな実ちゃんともちちゃんの足どりが早くなりました。

そしてちょう上です！もう、うれしくてうれしくて、思わず走ってしまいました。

その後におべんとうを食べておかしの交かんをしました。

それから由良岳登山40年記念で大声コンテストがありました。

わたしは、大声コンテストをすることにしました。

ほかに、五年のえりちゃん、はるなちゃん、まやちゃん、とで4人で出るようになりました。

そして、わたしの番です。

「やつほく。」と大声でさげびました。

結果は103ぐらいでした。そして少しぐらいしてから帰りました。

今度は反対にちょう上から下に帰るのは、足がガクガクして、どうしても走ってしまいました。

帰るときは、五年のえりちゃんとかかな実ちゃんとかかな実ちゃんとはるなちゃんともちちゃん達と帰りました。

と中、ほり口先生と教頭先生にあつたのでいっしょに帰りました。

そして、1時間とすこししたら国民宿しやが見えたので走りました。

そして、登山証明書とマグネットをもらいました。(ブタのマグネットでした。)

わたしは今年で7回目なので来年もがんばって登りたいと思います。

ちなみに59番目におりてきました。

平成17年度 人権標語入選作品

《優秀》

あなたのこと 必要とする人 きっといる

栗田中学校3年 大森美幸

由良がたけを登った

五年 浜本もも

今日待ちに待った由良がたけ登山の日です。

わたしは、最初、かな実ちゃん、真子ちゃんと一緒に登りました。

3人で、体そうをして、おかしをもらって、由良がたけ登山へ行きました。けれども、由良がたけより前に、坂道があるのですが、そこでもうつかれぎみでした。そこをがんばって登りました。そのとき、まだまだ登っていないのに大丈夫かなと思いましたが、それから2、3分後ぐらいになって、休みました。お茶はいっぱい飲んだら苦しくなるので、少しだけ飲むようにしました。

それから15分ぐらいたつと、すぎ林まできました。わたし達もうちよつとでちよ

う上かと思っても、まだまだでした。それに、あせがいっぱい出たし、えらかったです。

何分ぐらい歩いたか、かんばんが見えました。わたしたちは、5分で着くちよう上の方へ行きました。そして、ちよう上に着きました。そのとき、登りきった気分はサイコーでした。

少し休んで、みんなとおべんとうを食べました。みんなおかしを交かんしたりしました。今回は、大声コンテストがあつたのですが、わたしは出ないで、山をおりました。そのとき、美さちゃんと、かなちゃんとかんなちゃんのお父さんとおりました。

おりていたら、大声コンテストの人達の声がかすかに聞こえました。

下り坂で一回走ったら、なかなか止まらず、しりもちをついたりしながらおりました。

親子遠足

五年 山田かな

五月十四日(日)に、港、石浦地区で親子遠足に行きました。大阪の海遊館に行きました。

まず、コツメカワウソを見ました。かわいかったです。サワ

ガニも見ました。それから、かいじゅうみたいなワニ、カマイルカ、ペンギンなどを見て、熱帯魚を見ました。それから、深さ9メートル、はば18メートルの水そうを見ました。ジンベイザメの遊ちゃんを見ました。大きかったです。マグロもその水そうにいました。

それから、カマイルカのげい練習を見ました。ジャンプのできかけもいました。ペンギンの毛がついたのもいたし、水そう

気持ちいい山登りができたし、とっても楽しかったです。

の前は、寒かったです。それからクラゲをみました。赤クラゲ、いっ生しないタコクラゲとかを見ました。ふわふわ動いて、かわいかったです。

それから、生き物デザイン博に行きました。青黄赤の魚などがすごかったです。それから、ゴマファザラシの人形、ガラスのおきもの、コツメカワウソの絵はがきを買いました。つかれたけど楽しかったです。



親子遠足

五年 岡野永莉

5月14日(日)に親子遠足があつて姫路セントラルパークに行きました。

バスに乗って出発してから、みさちゃんやありさちゃんたちとしやべつていたらすぐにドライブインに着きました。その時にななみちゃんたちと会いました。

それからまたバスに乗って今度はビンゴをやりました。最初はよかったのにどんどんなくなってきました。でも、ビンゴになつてうちわとかみどめをもらいました。でもかみどめは小さかったのであいなちゃんにあげました。それからいろいろしていたら、セントラルパークへ着きました。

サファリパークの方ではたくさん動物がいました。チーター

をはじめにライオンやゾウを見ました。キリンにえさをやっていると手が舌にさわりました。気持ち悪かったです。

それから今度は遊園地に行きました。フリーパスをおしてもらつて中に入つたらすぐにおべんとうを食べました。そして、ジェットコースターに乗つたりいろいろして遊びました。それからフリースローという高さ100mぐらいのところからいつきにおりる乗り物に乗りました。こわかったです。それからおみやげを買ってバスに乗って帰りました。いろんな乗り物に乗れてよかったです。また行きたいです。

PTA活動について

由良幼小PTA会長 由利典久

平成十八年度由良小学校のPTA会長をさせて頂くことになりました。由良地区の皆さんには何かとお世話になります、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本年度の由良小学校、幼稚園の入学、入園人数は、一年生六名、ちどり組二名と非常に少ない状況でした。私が卒業しました昭和四十五年当時は、三十六名のクラスでしたし、四十名以上という多い学年もありました。由良小学校を卒業された方なら、今年の入学、入園人数を聞かれたら「少なくなったな」、自分達の学年は何十何人やったなあ。」とあのころのことを思い出される方も多いと思います。

やはり由良地区の少子高齢化

の波は、かなり進んでいると言ふ実感も皆さんも持たれるのではないのでしょうか。

また、昨今の子供達の身の回りについては、全国的に環境の変化は起こってきております。特に問題となっていることは、学校内での凶悪犯罪、登下校時における連れ去り事件等であり、子供達の安全を脅かす事件は多発しています。勿論、由良地区でも例外ではなく、何時起り得るかも知れません。子供達の親や家族にとつても、特に懸念される問題であると思います。現在、由良地区においては、地域の方々や各種団体等また松寿会の皆さんには子供の登下校時の見守り等、これまで犯罪の未然防止に大変お世話になっております。

現在、各方面から『こども・地域・安全見守り隊活動事業』が呼びかけられています。この活動事業は、地域において「自分達の地域は自分達で守る。」と言う決意のもと、自主防犯活動を行う各種ボランティア団体等を結成し、子供達や地域の住民が安心して、安全に暮らすことのできる地域社会の実現を目的とした活動です。宮津・与謝でも立上げられた地域もあり、防犯パトロール、立番による見守り等の活動が始められています。

子供の生活「今昔」

栗田中学校PTA会長 千坂 幸雄

栗田中学校の教育が、PTAの皆様と地域の皆様の協力を得て充実することを願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

子供の生活のことで私を感じていることの一端を述べさせて

今後、由良地区においてもこのような活動事業の発足を検討しなければならぬと思います。子供の数も年々減り続け、PTA行事や活動、各地域の子供会の活動等が寂しいものになっていくのも現実ではありますが、由良地区の子供と大人が今以上に、いろいろなところでふれあい、助け合いができるような活動を行い、そのような中で子供達の健全な心身の育成に少しでも役立てるように頑張りたいと思います。

いただきます。

最近、自分の思いを他の人に上手に伝えることが苦手な子どもが増えているように思います。このコミュニケーションの弱さから来る影響として、学校での仲間との生活がうまくいかずに

悩んでしまったり学校に行きたくなくなったりしています。そのことは学習やスポーツに力を入れることができないことにつながります。

なぜ、コミュニケーションが弱くなってきたのでしょうか。私たちが子どもの頃は、家族も多く、子どもたちも今とは比べものにならないほど多くいました。そして、その生活は子どもも含めての共同生活でした。そうしなければ生活ができなかったという現状があったからだと思いますが、その生活が子どもたちの生きる力になり、コミュニケーションの方法もその生活の中で学んだのでしよう。子どもたちは縦割りの年齢構成の中で暗くなるまで外で遊ぶことでいろいろなことを学びました。

今はどうでしょう。学校が休みの日でも子どもたちが外で遊んでいる姿を見ることが少なくなりました。部活動や少年野球、剣道や空手などに参加している

子どもたちは学校の先生や地域の方々に支えられて良い経験を積むことができています。しかし、子どもたちみんながこのような経験をしているわけではありません。普段は家でゲームをしたり、テレビを見たり、最近ではインターネット関係にも時間を費やしているのではないのでしょうか。これらの時間を長くとってしまえば家族の会話も少なくなってしまうようで心配です。



H 18.5.28 由良小学校「ふれあい玉入れ」

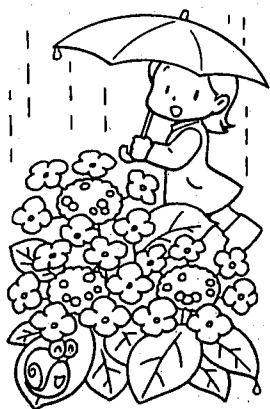
コミュニケーション不足のため
に友達とうまくいかずに悩んで
しまうのは女子のほうが多い
ようです。小さい頃からの男女
の生活の違いから来ていること
が大きく影響していると思いま
す。女子よりも男子のほうが少
年野球などで一緒に活動する機
会が多くあるようです。何もし
ない休みの時には男子はグラ
ンドで友達と一緒に野球をしたり
して遊んでいるのではないでしょ
うか。

少子化で子どもが大変少なく
なっています。近くに同級生の
友達がいなかったりして一緒に
遊びにくい状況もあると思いま
す。また、外での遊びについて
は、テレビや新聞で子どもを巡
る事件が多く報道され、安心し
て遊ばせることができないと思っ
ている方も多くいるのではない
でしょうか。しかし、親や地域
の人が見守る中で集団で遊ばせ
てやれば危険なことはないと思
います。これからの子どもたち

には、集団での遊び場や地域の
ために役立つ仕事を留意してや
りたいものです。

大人が子どもたちのために教
えてやらなければならぬこと
はいっぱいあると思います。子
どもたちと一緒に汗を流
していければと思います。

子供会はもちろんのこと、公
民館でも子どもと一緒に汗を流
取り組める行事を計画していま
す。親が積極的に参加を勧めて
やってほしいと思います。



由良のすばらしい自然を生かした 観光めざして

由良観光組合長 松本 弘

区民の皆様、日頃観光組合に
何かと御協力を賜り心から感謝
申し上げます。今春から組合長
としてお世話になります松本で
す。よろしくお願いいたします。

今、各地域ではいろんな珍し
い取り組みが盛んにされていま
す。外湯など温泉祭り、チュー
リップ、藤、アヤメ、つつじ、
など花祭り、そしてイベント催
しての集客など様々です。

当地には、豊富な観光資源が
沢山あり、これを地域の皆さん
とご一緒に生かして進めること
が、真剣に求められている時期
だと思えます。山紫水明のこの
町に今すぐ出来る一つとして、
毎年愛好家が増え続けている由
良岳登山道、すそ野ハイキング
コースの整備など、汗をかいた
後は湯らゆら温泉郷を生かして

外湯で健康づくり、また、駅裏
の荒廃田を利用して花しょうぶ
園や、ホテルが生息できる里、
季節毎に咲く美しい花畑など、
自然をそのまま生かした憩いの
場になれば、誘客にも大きな役
割を果たし、宮津の玄関口にふ
さわしいものになるでしょう。

更に最近、御当地ソングが大
変ヒットしています。城崎恋歌、
鳥取砂丘、天橋立など当地にま
つわる作詞を募集しています。
全国に歌を通じて宣伝する機会
です。ふるって観光組合まで御
意見御要望をあわせてお寄せく
ださい。観光組合一同、一生懸
命魅力ある町づくりに誠実に取
り組んで参ります。静かなたた
ずまいにあった外湯づくりの実
現に向けて多くの皆様の御協力
を心からお願ひするものです。

今後の婦人会について

由良婦人会長 岡田 たつ子

山々の新緑のまぶしい季節となりました。由良地区の皆様には、日頃から婦人会活動に温かいご支援ご協力を頂きありがとうございます。

二月の末に由良婦人会の会長に選ばれてから三ヶ月余りが過ぎました。小学校の入学式（六人の一年生はとても可愛く出席できて良かったです。）に始まり、五月の総会まで慌ただしく、今少し落ち着いた所です。

何分、年は当たり前に重ねていきますが、人を引っ張って行く力もなく、体が丈夫なのと、くよくよしないのだけが取り柄の私ですが、人と会うのは大好きで、今年一年、色々な人との出会いを楽しみに、私なりに負いなくやっついていこうと思います。先日、仕事の関係で舞鶴のあ

る地区の敬老会の案内文を作りました。その中で、共催の箇所は訂正があり、昨年は婦人会で今年各地区女性代表となりました。

ということ、この地区も婦人会がなくなってしまうんだなあと寂しく思いました。聞くところによりますと、そういう地区が増えていくそうです。婦人会がなくなれば、敬老会や文化祭の行事は、各地区の班の方々にお世話になるのかなあと複雑な思いで由良地区にも置き換えてみました。

由良地区でも、婦人会の入会は強制ではなく、人数もだんだん減ってきています。家庭の事情で脱会される方もあれば、定年を過ぎて賛助会員として残ってくださる方もおられます。

昔はこうだったとか、こうするべきだとか言っている場合ではありません。存続しようとするれば、それなりに改革したり、若い方達の意見も聞いたりと考えていかなければならない時に来ています。

労力のいる行事は地区の為にボランティアと考えて、そのかわり楽しむ時はしっかり楽しんで、明るい、意見のいいやすい婦人会に出来ればいいと思います。

今後の為に出来る限りの改革をし、若い人が入りやすい雰囲気づくりや、何か婦人会も楽しそうだなと感じてもらえるよう、大変だ大変だとぐちをこぼさず、楽しんで一年を過ごしていきたいです。

幸い、本部役員さんや各支部の役員さんも、気さくで、しかも私よりもずっとしっかりした方ばかりで、頼りない会長の私を支えてくれています。一人の力では何も出来ません

が、役員の方や婦人协会会员の皆さんにご協力をお願いし、由良地区の為に少しでもお役に立てたらと考えています。何かご意見がありましたら、なんなりと、気楽に声をかけてください。若い方達の入会を待っています。

少子高齢化が進む由良地区で、若い(?) 私達が生き生きと活動できれば、婦人协会会员の減少にも少しは歯止めがかかるのではと、ささやかな期待を込めて一年間頑張っていきたいと思えますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



五十年目の真実(Ⅰ)

(文豪三島由紀夫と丹後由良そしてポップ屋(鉄道員)修さん)

藤沢市 平 間 武

私はその日一日の出来事を未だに鮮明に覚えている。

昭和四十五年十一月二十五日、

その日の東京・国鉄市ヶ谷駅界限は午後から異様な空気に包まれ、にわかには人、人、人の波でどった返し始めていた。

まさに騒然とした空気が刻々と変化し、緊張した時間がアツという間に流れていった。

当時、私は某私立大学の一回生、その学び舎は千代田区富士見町、市ヶ谷駅から飯田橋寄りに徒歩十分の高台にあり、お堀を隔てた目と鼻の先には陸上自衛隊東部方面総監部があった。

その日、私は市ヶ谷上空を何機ものヘリコプターが行き交うのを目にし、風向きにより途切れ途切れになるパトカーのサイ

レンや拡声器からの怒号に似た騒がしい叫び声の数々を耳にしたのである。

そして午後零時十五分、作家・三島由紀夫は自らの命を絶つことと四十五年間に渡り綴り続けた一世一代の長編小説を彼独自の美学によってアツと言う間に完結させてしまったのであった。

私はその日の夕刻には横浜・綱島にある同郷の友人の下宿に寄り、高架橋を走る新幹線の音を遠くに聞きながら、私が目当たりにした市ヶ谷での出来事を、その友に得意気に話して聞かせたことも覚えている。

その歴史に残る惨劇の日から遡ること丁度十五年、昭和三十年十一月十日、国鉄京都駅午前

六時五十五分発敦賀行き列車に飛び乗り、東舞鶴を屈指したひとりの新進作家がいた。

当年とつて三十歳、若き日の三島由紀夫そのヒトであった。

当時の三島は「仮面の告白」「潮騒」などの話題作品を次々と世に送り出し、「太陽の季節」の石原慎太郎と並び称され、すでに当代きつての新鋭人気作家でもあった。

その頃、三島は翌年の一月から雑誌「新潮」に連載予定になっていた昭和二十五年に実際に起きた金閣寺放火事件を題材にした小説「金閣寺」の取材のため京都・南禅寺の加満田旅館に長期滞在していた。

そして十一月七日には金閣寺周辺を取材、翌八日には検察庁において金閣寺に火を放ったとされる犯人(東舞鶴出身)の検事調書を閲覧し、さらに九日には大谷大学(犯人は大谷大生でもあった)に赴き取材をした後、翌十日早朝に宿を出て敦賀行き

の列車に乗車したのである。但し、その時の三島は一人ではなかった。

三島の実父・梓の知人(京都在住)が氏の依頼を受けて随行していたのである。私が手に入れた三島の金閣寺創作ノートによると、当時京都駅を発った山陰線の列車から彼が見た風景はこうであった。「保津川あたりの朝霧に浮かぶ、木をかこめる藁屋の不思議な眺め、ハザ、青カビ色の刈田。気流の関係により気候激変!保津川から霧上がりて流れ時々絶ゆ。園部へゆくと霧すくなし」おそらく二人はその日の午前十時過ぎには東舞鶴駅に到着したものとされる。

そして早速、主人公となる犯人の育った志楽の町、さらには真言宗・金剛院と取材を重ねている。その取材時にスケッチした青葉山周辺の山並みの絵図も非常に興味深いものであるが、その創作ノートの内容たるや実に微に入り細に入り、わずか一

日でよくこれだけのことを調べ上げられたものだ」と改めて感心させられてしまう。おそらくその日はその周辺を二人で目いっぱい取材し、東舞鶴の町に投宿したのであろう。

そして翌十一日には東舞鶴駅前降り立ち（この時点では、すでに三島は一人であったようだが、おそらく随行者はこの日、西舞鶴駅から京都に引き返したのではないだろうか）当初予定に入れていなかった行動をとった。それは取材目的地を急遽変更し、西舞鶴港からその街を素通りして丹後由良へ徒歩で向かうことである。

創作ノートにも「この日、自分で歩く」東舞鶴、舞鶴」とその日の予定を記しながらも、その上からあとで舞鶴の文字が斜線で消されているのだ（地元で舞鶴とは一般的には西舞鶴のことである）。

確かに各作品ごとに綿密な取材を重ねることで定評のある三

島なのではあるが、当時すでに人気作家だった彼は戯曲「鹿鳴館」の他、次から次へと書きたい作品の企画が目白押しで、その頃はけっこう多忙を極めていたはずである。

現にその時、もうひとつの連載小説「永すぎた春」も同時進行で執筆していたのであった。

そんなさなか何ゆえに丹後由良までの約十三キロの道程（汽車を利用すれば三十分足らず）を自らの足で、わざわざ時間をかけて歩こうと思いついたのであろうか。

おそらく海が好きな三島は無性に舞鶴の海に逢いたくなっていたのであろう。

舞鶴の海の取材ならば真の放火犯が生まれ、小学六年まで育った東舞鶴に近い日本海に面した成生岬付近なのであるが、何故かその前日に三島がそこへ行った形跡が創作ノートにはない。

そんな三島が海を求めて先ずは駅前から最寄りの西舞鶴港ま

で約十五分の距離を歩き辿り着いたその埠頭で見たものはコンクリートで固められた、あまりにも人工的で生命力がほとんど感じられない無機質な海であったのである。

三島はその光景にまさに本文の通り愕然とし落胆したのであろう、そしてすぐさまこの作品の中で主人公が最終的に金閣寺に火を放つ大きな動機づけとなる場所と見なした丹後由良の海に思いを馳せたのではないだろうか。

そしてそこがこの物語のひとつの重要なクライマックス場面になる可能性がある」と直感的に予感したのであろう。

さらに、その目的地までの道程のなかに、やがてこの事件を引き起こす犯罪者の微妙で複雑な心理を紡ぎ上げたかったに違いないのである。

道中、特に四所駅前を通り過ぎ滝尻峠を越えて由良川に架かる大川橋を渡り、突き当たりを

右に折れた辺りからの、そして由良川を右手に山椒大夫遺跡を左に見て河口に至るまでの文章表現ときたら、我がが由良川も文豪・三島由紀夫の手にかかる、かくも文学的に調理されてしまうのかと驚嘆すると同時に当時の由良川を知る者を難なく五十年前にまでタイムスリップさせ見事に鳥肌を立てさせてくれたりもするのである。

その道程はまさに大きなクライマックスを迎えるための重要な序曲なのであった。ゆえに三島は「西舞鶴から丹後由良までは何がなんでも絶対にこの足で歩かなければならぬ！」と思っただのである。

然しながら、どうしてもここで一つの大きな疑問にぶつかるのである。

それは、その当時どうして三島が急遽丹後由良に思いを馳せ何故そこを目指そうとしたのかということである。如何に先見性と洞察力に卓越しインスピレー

シヨンの強い三島といえども果たしてそれだけで人伝えに聞いた？未知の丹後由良まで、それも見ず知らずの不安な道程を時間をかけてまで、たった一人でわざわざ歩こうとするものであろうか、ましてや、あの几帳面な三島がである。

後の調査でその疑問は見事に解けたのである。

そのヒントは新潮社刊「写真集・三島由紀夫」の年賦にあった。

つまり彼が丹後由良まで歩こうと決意したその時点で三島は西舞鶴駅から港と同じ方角約十二キロ先に、その季節には必ず彼の心を大いにときめかせるのである。うしろに由良川とその周辺の景色、さらには丹後由良の海が存在していることをすでに知っていたのである。

なぜならその年譜によると三島由紀夫は太平洋戦争中の戦乱激しい昭和十九年五月に本籍地・兵庫県印南郡志方村に於いて徴

兵検査を受け第二乙種に合格した後、その年の七月九日まで(期間は定かではない)一教練生として舞鶴海軍機関学校での陸戦教練に参加していたのであった(但し、翌二十年二月の入隊検査では不合格となる)。

私は小説「金閣寺」本文にはその時代の三島自身の実体験が各所に散りばめて記されていると強く確信している。

例えば本文の「舞鶴湾。この名は昔にかかわらず私の心をそそった。(中略)それは見えざる海の総称であり、ついには海の予感そのものの名になったのだ。その見えざる海も、志楽村のうしろに聳える青葉山頂からはよく見えた。

『私が』青葉山に登ったのは二度である。二度目のとき『私たちは』折しも舞鶴軍港に入っていた聯合艦隊を見たのだった。さらに湾内に碇泊している艦隊は秘密の勢揃いをしていたのかもしれない。

この艦隊にまつわることはみんな秘密に属し、私たちはほとんどそういう艦隊が本場に存在するかを疑っていたほどである。だから遠望された聯合艦隊は、名のみ知っていて写真でしかみたことのない威厳のある黒い水鳥の群れが、人に見られているとは知らずに、猛々しい老鳥の警戒に護られて、そこで密かな水浴を楽しんでるように見えたのである。

その前後の文脈からして『私が』何の前触れもなく急に『私たちは』に変わったことと、三島の舞鶴の海に対する思い入れの強さを示した文章表現が妙に気になり、私なりに推察してみた。

三島はその十一年前の舞鶴での思い出を懐かしく辿りながら、この文章を書いたに違いない。おそらく彼はその舞鶴での陸戦教練期間中に、他の教練生と共に訓練の一環として青葉山に登

らされたのではないだろうか。そしてその山頂で三島を含め、教練生たち『私達は』が見たものは、まさに威風堂々とした大きな一羽の鶴がその羽を鮮やかに大きく拡げ、まるで大空を飛び舞っているかのように見える舞鶴湾の美しい姿であった。

そしてその朝日にきらめく湾内で逆光に映し出された光と影、すなわちそこに点在している聯合艦隊の艦船の影の数々は、これもまさに文字通り、あたかも猛々しい老鳥に護られている黒い水鳥たちの群れなのである。私には青葉山での体験はないが舞鶴湾の絶景では青葉山と双壁をなす五老岳には何度も登った経験があり、そこからの眺めから想像しても、その部分の文章内容は余りにもリアルで臨場感があり、まさに青葉山に登ってそこで実際に聯合艦隊に遭遇した者ゆえの驚きと表現であると、私自身の皮膚感覚で確信するのである。(以下次号に続く)

短歌

磯野睦子



不思議なる縁結びし由良駅舎三島由紀夫と夫の
会い五十年目の真実知らされし友に感謝の涙あふ
るる

金婚式病に臥せし夫より三島の出会い最高のプレ
ゼント

文豪三島由紀夫と夫の出会い歴史に残る証をば駅
舎に残せし真心に日々感謝の思いを友に捧げん

文豪三島由紀夫と夫の出会い歴史に残りし誇りを
ば胸に抱きて末世に株立つ

庚申

お日待のこと

中西俊夫

暦やカレンダーを見ておりま
すと、「つちのと・う」とか「か
のえ・たつ」「かのと・みといっ
た言葉を見かけますが、どんな
ことかと思われたことがおあり
かとおもいます。

これは中国古代の道教という
教えの考え方からきております。
十干といって木・火・土・金(こ
ん)・水の五行を兄(え)弟(と)
に分けたもので、年と日を表す
のに使われております。

「申・きのえ」「乙・きのと」
「丙・ひのえ」「丁・ひのと」「戌・
つちのえ」「巳・つちのと」「庚・
かのえ」「辛・かのと」「壬・み
ずのえ」「癸・みずのと」の十干
と、皆さんよくご存じの、子・
丑・寅・卯といった十二支とを
組み合わせると十干・十二支と読
んでこれを(えと)といってお

ります。

この十干と十二支の組み合わ
せは全部で六十組になります、
これを日または年にしますと六
十日または六十年となって、六
十日また年毎に巡ってくること
になります。

この六十の組み合わせの内で
「庚・申 かのえ・さる」の組
み合わせになった日を「庚申(こ
うしん)」の日または「庚申年」
としております。(ちなみに、今
年は「丙・戌」ひのえ・いぬの
年になります)

昔から(こうしんさん)の日
といつて、この日は、庚申待と
か、お日待、月待といった形で
伝えられており、古くは平安期
にさかのぼると云われておりま
す。

この由良でも、庚申の日毎に

庚申の祭りが近年まで守られていたようです。

六十日毎に巡ってくるお日待の日には、お講が開かれて、講の中では順番があつて宿になった家では、前の宿から引き継いだ庚申の軸物を飾る、この軸は庚申さんと呼ばれており、ここでは二つの軸を並べて架ける。

軸に描いてある姿は、どちらも青面金剛という仏教の夜叉の一つであります。

講中の皆が集まりかけると灯明をつけ線香を立てて拝み皆が揃うのを待ち揃ったら鉦を叩きながら次のような勤行を唱えます。

オコウシンデ コウシンデ
マイタリ マイタリ ソワカ
と庚申の真言をあげます、次いで年長の者が、南無青面金剛童子と何回か唱えてそのあと、般若心経を唱えて勤行をすませます。

庚申の軸は、青面金剛で、南無青面金剛童子と唱えて仏教的

な勤行をするのにもかかわらず、庚申さんの本体は猿田彦といって神さんであると云われております。神と仏がちや混ぜになつていても矛盾を感じていない。いわゆる神仏習合の考え方なのでしよう。

勤行を済ませたあとは飲食をしながらその晩は眠らずに翌日の夜明けを待ったと聞いております。

このことからお日待と云われたのでしよう、けれども夜も十二時を過ぎるとおいおいに解散といったことになっていたようです。

夜も眠らず夜が明けるのを待ったというところのおこりは、体のなかに三巳(さんし)といつて悪い虫がすくつていて、庚申の夜に人が眠ると、その人が眠っている内に体から抜け出て天にのぼりその人の悪事を告げて、その人の命を奪うと信じられていたので、この夜は眠らないで三巳(さんし)が体から出ない

ようにしたというのが庚申待、お日待のおこりで、この風習は随分昔から盛んに行われたことは記録などによってもみることができます。

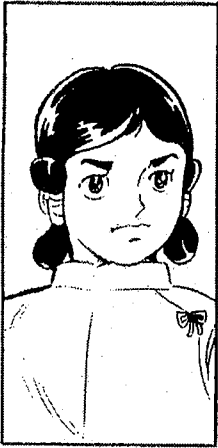
注 庚申さんの軸 写真二枚
(故大森寅一氏のご生存中に借用し撮影したもので、時間が経過しすぎ変色をしております)
た)



麻呂子親王の鬼退治

三森 明文・絵

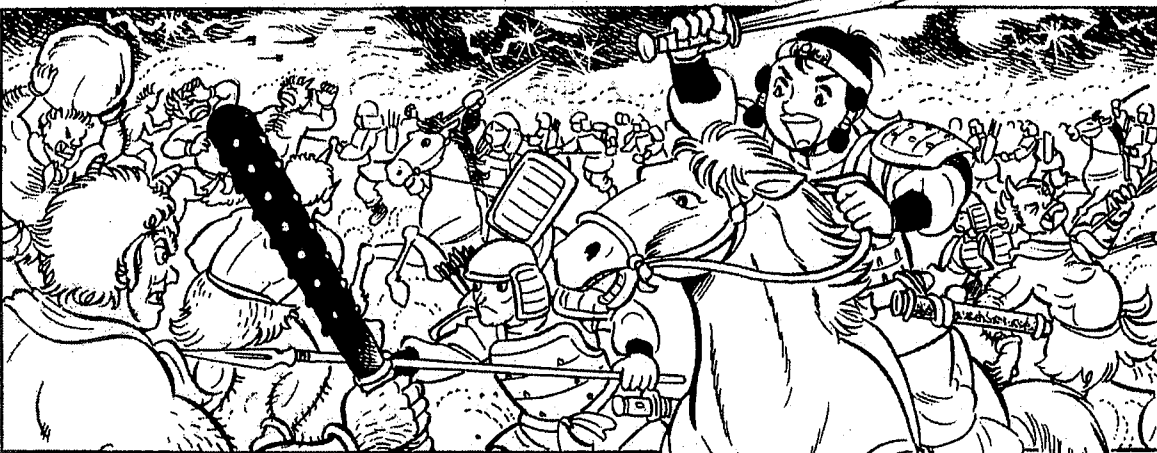
大江山の鬼といえ、酒呑童子が有名ですが、それより昔の飛鳥時代に、由良にゆかりのある鬼、土蜘蛛伝説があります。推古天皇の世、大江山に棲みつぎ人々を困らせたので、聖徳太子の異母弟で武勇にすぐれた麻呂子親王に鬼退治の命が下ります。御年十七才。



総勢一万の軍を率い、大江山へ向かう麻呂子親王。途中、大江山の近くで戦勝祈願をすると、伊勢神が現れて神鏡を付けた白犬を、お供にと賜ります。



神の加護を得て勇躍、鬼の眷族と戦う麻呂子親王の軍勢。



かなわぬと川守（現、河守）から川を下って逃げた土蜘蛛を由良まで追ったが見失い、石占いで行方をつきとめ、現在の京丹後市間人の立岩に、土蜘蛛を封じ込めました。ちなみに麻呂子親王が石占いをした所が、今の石浦といわれています。

舞鶴の寺の高台より港埠頭を見おろすとー

濱野路 大 森 孝

(一)

此処は浄土宗の古刹こせつK寺である。今日偶々たまたま親せきの遺灰いはいを墓地へ埋葬するために、この寺の高い山門をくぐった。睦月27にはあたり一帯はひんやりとしていて、前庭には数多くの南天があちこちに植えられていて、赤い実が趣をかもし出していた。冬の庭のあちこちの物かげに実をつけている南天はかなり古いものが多かった。

読経法要がすんで、私は庭で待つこととして、庫裡くりの裏手へ廻った。庫院は大きな建物が続いて会館らしき様子である。野趣に溢れた、冬の高台は、かの横浜中区の『港の見える丘』公園とは大きく異なっている。この、この高台からは舞鶴港の眺望ほしぞらが恣まじまじにできて、その意味で

は得難い高地ではある。勿論、会館らしき結捕の海側にならぶ、緋色の彼岸櫻の並木は冬枯れの下に佇み、高台のへりの笹の叢生の茂みはただ風に吹きさらされたままでじっと息をひそめている。

ところで、見下ろす先の第二埠頭では、今を遡る六十年の昔、『僕は裁判官になりたい』。高い志を小学六年生の暮れに語っていた竹馬の友人玉垣肇君。「その立てた彼の志望は何と太平洋戦争開戦のあとの昭和十六年十二月当時で不幸にも彼の思春期前期は、悲惨な開戦の非常時と重なってしまった、併せて悲しみは敵父をもシベリア抑留で喪うと言う三重の過酷さの人生の道行きの始まりー」その彼の舞鶴一中を卒業しての最初の職場が、

その埠頭そのものであった。

私は待望の広島高等師範学校文科三部へ入学を果たし、夏休み使用して貰い、畏友肇君が仲なな仕達を統率して自在に仕事を済ませて行くさまをみて感嘆した。

彼は荷役作業の現場監督として出色であった。『オバサン』仲仕の多数は異口同音に『玉垣さん・玉垣さん』と親しみをこめて、彼に従っていた。私はアルバイ

トで、彼のテキパキとした統率ぶりをみて、当時流行の血液型による性格分類に依る、外向的指導性に恵まれたB型特性かな！とも思ったり、或いは中学時代の親友だった、S君が中学卒業後、大阪の大林組へ入社したその影響が大きく及んだのかなとも思ったり、(S君は剣道部で彼とも交流深く、彼の母親の実家引土ともS君の居宅は近かった)様々な思いをめぐらしたが、彼が法曹界へ抱き続ける念に至らなかつた。彼は朗らかに振舞っていた。

そうではなくて、敗戦後も敵父はる治氏の復員を待ち侘び乍ら、父をシベリアに抑留されている間に祖父が他界して葬儀を出している悲しみ、母と弟妹五人を見守り乍ら、愈々昭和二十一年十月十五日、父がシベリアで死去。重ね重ねの労苦にうちひしがれての呻吟の下での選択であったのだ。悄然しょうぜんとしたさまを見た事がない。

彼に頼みこんで、第二埠頭で仲仕の列に加えてもらった時、表面上は活き活きと職務に精励していた十八才の彼がいて、学生生活を始めたばかりの私は、仰いで彼の青春の姿を見た。彼はどこまでも苦衷や悩みをうち払うように、いきいきと、人気者の活動的な若い監督さんであった。

(二)

彼は舞鶴一中の五年生、私は一年早く卒業して、敗戦の翌年九月より生物科の助手として舞鶴一中へ職員として勤めていた。

とある秋の一日、中西仁左衛門家の玄関の前で、この家の主人の義人氏が表を通りすぎる肇君をよびとめた。にこやかに、『お帰り！肇さんよ。おとうさん亡くなつたんだそうやナ。お気の毒に。悲しいけど、あんたも力おとさずにやって行きなよ。』彼は瞬間うつむいて、なぐさめのことばをききながら黙つて家路へついた。

村の祭りもすんで、夕ぐれの気配の漂う静かな或る日、彼、幼稚園から小学校、中学校と一緒に生きてきた身近な友の卑近な姿があつた。

私はこの情景を忘れられないで、七十七才の現在でも容易に思い浮かべることができる。彼の所作、それに義人氏がかけた言葉とその役割、意義、効果等について、その時々々に蘇る。

(三)

私が行路難で悩んでいた、西宮市立高等学校教諭としての三年目、『京都府へ戻っていみゃへ

ん？』肇君の助言に導かれて、四月より彼の下宿の七本松丸太町上るの田中家の近くに住みついた。聚楽廻り西町の「魚倅」に間借りして、彼の住居へ訪ねた。

母娘の住む家を、由良浜野路出身の田中実氏の世話で、入居していた彼の部屋には小さい文机があつて、机上には厳父治氏の顔写真がブローマイド入れのスタンドに納められ、彼の書見と向きあつて置かれていた。文机のかたわらには、法律関係の書物が積み上げられていたが、私の目をひいたのは雑誌のジュリスト (Justs) や法律時報など、私の高師生活でも難解を極めた部類のものだった。

『難しい本を読んでいるだな！』彼『そうでもないよ』と言いなから笑っている。そして又話題は広島高等師範学校の一年生の一学期に私達と一緒に入学した高橋信行君が、彼と同じ立命館大学法学部二部に学んでいると

いうそんな様子に及んで行つた。

こんな情景は昭和二十九年春、私は府立園部高等学校へ、この魚倅から食べて、二条駅からの通勤を始めた。彼は、小学六年生の時、私に漏らしていたように多くの奮闘の苦勞の青春の上に立命館大学の夜学生として法曹界への道を紡ぎながら、ひたすら進んで行つた。

京都地方検察庁へ入り、書記官の重い職務を果たして行つた。私は由良という農村に生を享けて、路面電車も外食食堂も知らなかつた戦前の庶民の一少年が

一身上の苦勞と、都会への進出に伴う数多いカルチャーショックをのりこえて、次々と阻害する壁を克服して不断の努力を傾注し得られたことは讃嘆すべきことだと思ふ。

それと今一つは郷党の先輩や知人が千本丸太町から七本松にかけて、比較的多く居住していて、心丈夫だつたこと。支えられたこと。脇出身のA氏や、松下出身のMさん夫婦や、先述の浜野路出身の田中実氏や、その他、顔見知りには将に地獄で仏と出逢つたようだった。(終)

靖国参拝を私はこう思う

山口 幸一

頑是ない子供達の命を奪って死刑を執行された、かの池田小学校事件の宅間が死んだからといって現在神様だなんて私には逆も思えない。オウムの松本智津夫だつてまだ死刑判決が出た

わけではないが同じ事だ。死ぬば其の罪は消えて神になる。なんてムシのいいはなしだ。宗教の世界ではそうかもしれないが、私達凡夫の世界ではそうはいかない。死んだつて悪魔は悪魔だ。

いい気味だ地獄の果てまで苦し
み抜いて、罪のつぐないでもし
ろと思っている。

況んや最愛の子や孫を奪われ
た遺族の人達にすれば、私と同
列の凡夫とは思われないが、憎悪
の念は一方ならぬものがあるう
と思う。当然の事だ。

東洋平和だの、大東亜共栄圏
の建設だの、もっともらしい事
をならべたて、結局は帝国主義
領土的野心の発露にすぎな
かったかの大戦を発起した人物
を、戦場で肅正と称して大量殺
戮を容認した人物を神として祀
り、国を代表する宰相や、国会
議員が仰々しく参拝するのを被
害国の人達がだまって見ている
訳がない。当然のはなしだ。

国土を思うさま荒らされ、誇
張はあるかもしれないが、二、
四〇〇万とも云われる非戦闘員
を含む犠牲、三十万という数字
は信じ難いが南京虐殺によって
無事の民を殺戮された国の人々
が黙って見ているわけがない。

怒るのは当たり前の事だ。かつ
て村山首相は侵略戦争であった
事を認めて素直に謝罪した。私
は立派だと思った。

(それを英霊を冒瀆するもの
とののしった我が選挙区が選ん
だ国会議員があつた。)

御存知の向きもあるう。遊就
館には今尚ルーズベルトに欺さ
れーとか、二人の少尉候補者あ
がりの二人の少尉の人を斬るの
をまるでスポーツの如き感覚で、
南京百人斬り競争などと銘打っ
た展示がある。

二人のうち一人の少尉の当番
兵であつた人の南京軍事法廷に
於ける供述を読んだ記憶がある。
それによると少尉は誰でもいい
から其の辺に居るのを引っ張っ
て来いとしばしば命令したとい
う。人間の良心などまるでない
殺人鬼の所業ではないか、二人
共処刑されたが、こんなのを神
として祀る靖国神社の性格にギ
モンを抱くのは致し方ない事だ。
こんなのは別として、私はA級

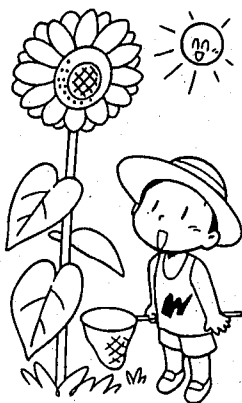
戦犯は祀るべきではなかったと
思う。だが一旦祀つた者は外す
事は出来ない規程があると聞く、
ならばどうするか、それは総理
大臣をお辞めになつてから、国
會議員は議員をお辞めになつて
から、私人としてお参りする事
だ。

外交はギクシヤクして孤立し
そうな雲行きだ。アジア諸国の
みならず欧米からも批判が出始
めた。中国という最大の経済市
場を失いかねない企業の立場を
憂慮する経済同友会からも自肅
を要請する声もあがつている。

これに対して首相は憲法十九条
を持ち出して「参拝は個人の信
条の問題」という。(それなら国
旗・国歌のほうはどうなる。と
私は思うのだが) 経済同友会の
要請に対しては、商売と政治は
別のはなしという。なんともし
まらなはいはなしだ。だが私達国
民は他国との緊張関係を取り除
き、信頼される日本として、文
化も経済もバランスのとれた交

流がなされる事を祈っている。

おーい戦友達、貴様達いまだ
ここに居る。息絶えだえの貴様ら
のつぶやきに、天皇のテの字も
靖国のヤの字もなかった。お母
さんのつぶやきは耳にした。だ
とすれば貴様達故郷の墓地でお
母さんと一緒に眠っているのか。
それならいい。それともほの暗
いわだつみの底に波にゆられて
今尚ごろごろしているのか、ま
さか九段の杜ではなかるうな。



経ヶ岬から潮岬まで (No.8)

四方 俊一

「湯泉地温泉」は六〇度で単

純硫黄泉、効能はリュウマチ性

疾患、慢性婦人病等とある。宝

徳二年（一四五〇）湧出した。

織田信長に仕え、宿老と呼ばれ

ていた佐久間信盛が天正八年（一

五八〇）高野山に追放され、そ

の後、高野山金剛峯寺小坂坊に

身を潜めたが、信長から「高野

山に住むこと叶うべからず」と

いう厳命が降り、吉野の奥、十

津川山中武蔵の里に落ちたと云

います。武蔵に隠棲中、湯治に

訪れ湯治中に没し武蔵の里に葬

られた。また、大和郡山城主豊

臣秀長の子、秀保が文禄四年（一

五九五）、湯泉地において小姓と

無理心中した等の伝説が残って

いる。

湯泉地温泉から山道を上って

行くと、突然、山の上に集落が

表れる。せわしない現代などし

らないという風なのどかな里で、

ここに楠正成の孫、正勝の墓が

ある。十津川で兵を集めて足利

勢に抗そうとしたがここで病死

してしまったという。

十津川に沿うて旅館や民宿が

点在し、静でカジカの鳴声を楽

しむことができる山峡の情緒も

味わえるところとして観光客に

人気を集めている。

直ぐ近くに歴史民俗資料館が

有り、南朝時代からの尊皇の志

篤かった十津川郷士の歴史、十

津川の生活の様子などをパネル

や模型を使って展示してある。

午後三時「滝」に着く、三叉

路が有り、道を左に取れば芦刈

瀬川沿に北山村に入る東熊野街

道である。この三叉路で国道一

六八号と四二五号が一緒になる。

十津川温泉迄九キロの道のり

川に沿って歩く。

十津川温泉は十津川村平谷蔵

尾にあり五条く新宮間の中継地

ともなる温泉である。二津野ダ

ム湖があり平谷に温泉街がある。

鉄橋を渡った蔵尾に着く、日

はまだ高い、早速、街の温泉に

入るべく案内板を見るが宿泊客

以外中々容易でない。所が街の

銭湯が温泉であることを聞きそ

こへ入ることとする。古い温泉

で「わらびお公衆浴場」の看板

が出ていた。番台で料金を聞く

と「一金、三百円」と云う。

脱衣場で荷物を下ろし浴槽に

浸る。今日一日の疲れもさっぱ

りと落とし身も心も軽やかにな

る。温泉宿の様に眺望の良い所

は無いが安価な入浴料ならばこ

れも良し、壁面は風呂屋の如く

風景画でも描かれているのかと

思ったがくすんだ白壁であった。

大人六人と子供四人が入浴して

いた。

この温泉は元禄年間（一六八

八〜一七〇三）に炭焼き人夫が

発見したと云われる下湯を源泉

とし、昭和四九年十津川温泉が

できたと云う。

温泉の開発により十津川村で

最も多くの旅館や、商店が集ま

り賑わう様になったと云われて

おり、村内最大の街に発展した。

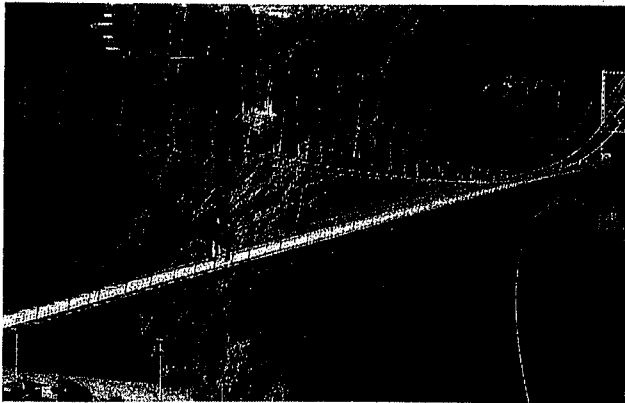
温泉は七〇度で泉質はナトリ

ウム炭酸水素塩・塩化物泉。効

能は切り傷・火傷・リュウマチ

性疾患等となっている。

国道下は二ツ野ダムの水をた



十津川の吊橋

たえている。上湯川が十津川に流れ込む所に赤塗りの鉄骨アーチの橋がある、橋を渡ると川原があつたのでそこにテントを設営する。

翌日、(五月五日)朝五時に目覚め、朝食を済ませて出発である。漸くにして和歌山県を目前にしていた、朝六時二津野ダムに向かう。このダムが十津川最後のダムとなり奈良県十津川村との別れである。大字七色地区。国道一六八号線の二津野ダムを見下ろす景勝の地に立ち、しばし感慨に浸る。経ヶ岬から良くも歩いたものだ。

村営観光案内所で昼食用の「めはりずし」の弁当を買い求め出発した。朝から鈍よりとした天候ですっきりとしない。山の木々は新緑で覆われて初夏の景色であった。やがてポツリポツリと雨が落ち始めた。直ぐに雨合羽を着用し雨の中を歩く。

出発してから五月晴れが続いたが八日目にして久し振りに雨

この和歌山の雨は丹後、丹波の雨に比較して雨粒が大きい様に感じた、熊野大社迄十キロ、二時間の行程、雨はだんだん強くなる。通る車両の水飛沫がうらめしい。

奈良県の県境を超えると、「土川屋」、江戸時代、村民は十津川より新宮までの船運に従事していたと云われる村である、その南、「切畑」があり、熊野参詣人の往来を改め関銭を徴収していたと云われる所であった。そして熊野本宮大社のある本宮町のメイン。

「和歌山県本宮町」、北は奈良県と津川村、南に熊野川町、東は熊野川を挟んで三重県紀和町、西は竜神村と中辺路町に接する山間の地である。熊野三山(熊野座神社・熊野速玉神社・熊野夫須美神社)の一つ熊野本宮大社もここに鎮座しており、街の中心本宮は大社の門前町として開けたものである。付近には湯の峰温泉・川湯温泉・渡瀬温泉

と云った山の出湯もあり訪れる観光客も多い。

熊野本宮大社(熊野座神社)に着いたのは午前十時、いつしか雨も止む、早速観光客に混じって参詣する。古くは熊野座神社といひ、熊野に鎮まる大神を祭る神社であった。新宮と五條市を結ぶ国道一六八号線の線に囲まれた地に有り、一の鳥居を潜り、石段を登ると境内に入る。正面に神門が有り、袖垣に連なつて左側に拝殿が立つ、その奥正面に相伝殿、御本殿、若宮と続く。

熊野詣説明書に次の如く記してあつた。「熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社の熊野三山に詣でることを俗に熊野詣でとか三熊野詣でとか云う。熊野は修験道に於ては、金剛会・胎藏会の南の入り口であることされ、早くから山伏が入っている。しかし、いわゆる熊野御幸と呼ばれる皇室関係の参詣は延喜七年(九〇七)、宇多法王が始め

と云われている。その八〇年後には花山法皇が、那智山滝本に一千日の滝籠りをして居る。以後、白川上皇・鳥羽法皇・崇徳上皇・後白河法皇・後白河上皇・後嵯峨上皇・龜山上皇が参詣と記録にあり、なかでも後白河法皇は「百鍊抄」によると三三回も詣でている。院政期から鎌倉中期までの約百九十年間に、実に百回にわたる御幸が行われているのである。女院の参詣も侍賢門院・美福門院・建春門院・



熊野本宮山

八条院など多数に及んでおり、一遍上人・文覚上人などの参詣も有名である。源平両氏も熊野信仰には熱心であった。平安時代の俗謡を集めた「梁塵秘抄」に「熊野に参るには紀路と伊勢路どれ近し、どれ遠し、広大慈悲の道なれば紀路も伊勢路も遠からず」とあるように、熊野詣の道は伊勢方面から参る伊勢路、つまり東熊野街道と、大阪から参る紀伊路、つまり西熊野街道が有った。紀伊路は世に云う「小栗街道」で、田辺で中辺路と大辺路に分かれるコースである。

ほかに「高野街道」・「十津川街道」・「北山街道」があったが平安後期以降は中辺路が最も利用されている。同書に「熊野へ参らむと思へども、かちより参れば道遠、すぐれて山きびし、馬にて登れば苦行ならず。空より参らむ、はねたべ若皇子」と有るように熊野への道は遠くけわしいものであった。さて、平安時代には貴族が主体であった

熊野詣でも、鎌倉時代に入ると武士の参詣が目立ってくる。室町に入つて一次寂れたが、江戸時代には再び盛んになり、蟻の熊野詣でと云われる程参詣者が多かつた。その隆盛の裏には御師・先達（修験者の峰入りの先導者）・熊野比丘尼（尼の姿をして諸国を巡り歩いた一種の芸人）といわれる人々がいた。彼らは全国をまわつて熊野信仰を説き、熊野詣を進めた、そして熊野三山への道案内や、参れない人の為には代参も努めたと云う。参拝者は神前で祈願をし、本地仏の供養をして熊野牛王（熊野三山で配布した神符の一種）と護摩の灰を受けて帰つたと云う。物見遊山気分では参れない厳しい参拝ではあったが、熊野信仰は皇族から武士、庶民層にまで、幅広く浸透していったのである。

左は十津川（熊野川と名を変え、又、新宮川とも云う）が流れるが上流にダムが多いせいから川原の多い川になっている。午後一時、「宮井大橋」に着く、左折して大橋を渡ると国道一六九号と三一一号で熊野川の瀧峡・瀧八丁の先、北山川を登り北山村に達する和歌山県の飛び地である。

暫く歩くとウォータージェット船発着所に着く、ここから乗船して瀧峡へのぼるのである。団体の観光客が雨の中、乗船しようとしていた。十津川の真ん中が和歌山県と三重県の境界となつていて対岸の三重県側には県道七四〇号（小船紀宝線）が熊野川（新宮川）の河口の和歌山県、新宮市と三重県鶴殿町に向かつている。

雨は激しく降る、新宮の街迄十七キロを車両の通行を避けてただひたすらに歩く。

とうとう来た、日本海側から歩いて太平洋側に来た、和歌山県の南東端にある「新宮市」。熊野川の河口にある商工・観光都市。古くは熊野三山の一つ、熊野速玉神社の門前町として栄え、熊野別当（本宮以外に別の官を兼務する者、僧侶の一つ）が居住したところである。戦国時代は堀内安房守が熊野別当を庵下に威を張つたが、関ヶ原の戦い後、和歌山城主浅野幸長の次男忠吉が新宮城を築城。その後元和五年（一六一九）水野重仲が入城して、新宮はその城下町として栄えた。水野氏は十代二五〇年間にわたり、今の和歌山古座町から三重県長島町迄統治、明治維新を迎えている。明治四年（一八七一）七月、廃藩置県にともない新宮県となり、同年十一月、廃されて熊野川を境に和歌山県と三重に統合された。のち、昭和八年（一九三三）十月、市制施行、同三十一年、高田村を編入して今日に至っている。現在は田辺市と並ぶ紀南の中核都市で、とくに熊野川流域に産する木材の集散地として知られる。江戸時代は新宮港を拠点に熊野材を江戸に送って、深

川市場で覇を競ったものであるという。今も製材業・木材関連業が盛んで、河口南岸の熊野地には貯木場と製材工場が集中している。市域は海と川と山に囲まれ、豊かな自然環境に恵まれている。観光的には吉野熊野国立公園の表玄関で、市内に文化財、史跡があり瀟峡観光の起点ともなっている。

しかし、現在の新宮市は観光都市と云うより南紀一帯の行政的中心としての性格が強い。

新宮の橋本交差点に着いた頃には雨も小降りとなっていた、時は午後五時過ぎ、左は新宮高等学校、国道四二号と交差する所である。

取り敢えず新宮駅に行き一休みする。新宮駅横のスーパーで夕食を買い求めた、それは名物「サンマ姿寿司」、疲れた身体には美味であった。鯖寿司よりも淡白な感じがしたが……三十分余りの休憩後、今夜の宿泊場所を求めて国道四二号を三崎浜の

方面に西進する。

JR紀勢本線三輪崎駅の北側に八幡神社がありその神社の境内を借りる事とする。神社前を通行する車両の音以外は何も無い。軒下に一夜の宿を借り雨霧を凌ぐ、忽ちにして深い眠りに落ちる。(次号へつづく)



編集後記

平成十八年度の公民館役員も決まり新しくスタートしました。

第四十回由良岳登山を皮切りに地域の皆様のニーズに應えるよう全員力を合わせて頑張りますのでご支援ください。

藤沢市在住の平間武さんから「五十年目の真実」(文豪二島由紀夫と丹後由良としてポッポ屋(鉄道員)修さん)と題して寄稿していただきました。長文ですので四回に分けて連載する予定です。

全国各地から子供が被害者となる事件が多発しています。

由良地区だけが安全という保障はなく地域全体で安全、安心を築きあげていく必要があります。

まもなく夏シーズンを迎えます。活気ある海水浴場として大勢のお客様でにぎわい、事故のないシーズンであることを祈念いたします。

(飯澤)